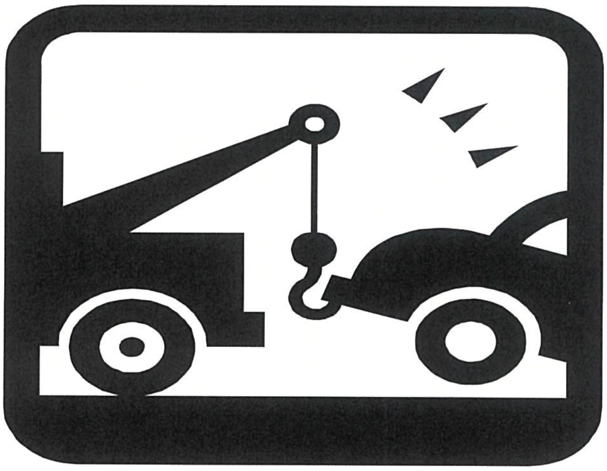
環境経営レポート



実施期間：２０２３年４月～２０２４年３月対象

2024年10月25日

長沢自動車総合センター

（マツダオートザム高岡宝来）

事業活動の概要

1. 事業社名及び代表者

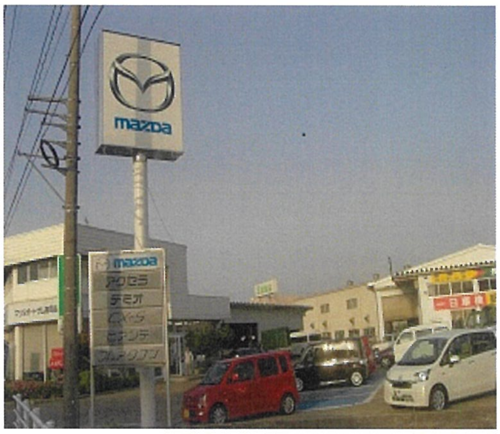
長沢自動車総合センター（マツダオートザム高岡宝来）
代表取締役社長　　長沢　貴士

2. 所在地

〒　933－0343
富山県高岡市宝来町959

3. 事業内容

マツダブランド等の乗用車・商用車の新車販売（マツダ特約販売代理店）
新車・中古自動車販売（全メーカー）
自動車整備業（車検・点検・修理等）
損害保険取り扱い代理店（自動車・火災・傷害生保）
カーレンタリース業・オーダー架装



4. 事業の規模

従業員数	23名
年間売上高	666,160,000
年間販売台数	250台
年間整備入庫台数	5766台

（注）上記実績は、2023年4月～2024年3月までの実績値

5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	取締役社長	長沢　貴士
EA21環境推進事務局	担当責任者	土田　善博
連絡先	TEL　:0766-31-0580	
	FAX　:0766-31-4280	
	e-mai　:naga.a@guitar.ocn.ne.jp	

6. 認証・登録対象範囲

①認証・登録事業者
（本社）マツダオートザム高岡宝来・（工場）長沢自動車総合センター
　富山県高岡市宝来町959
②認証・登録の活動範囲
　乗用車・商用車の新車販売、中古車自動車販売、自動車整備業
　損害保険取扱い代理店業、カーレンタリース業、オーダー架装

環境経営方針

■基本理念

当社は、富山県高岡市に本拠を構え地域ぐるみでの環境活動への参加とオンリーワン企業を目指しております。この美しい自然環境と共生し、私達は地球温暖化が深刻化する中での対応として、地域のつながりを大切に一つでも多く関り環境に配慮し資源の有効活用を図るよう努め真剣に活動していくことが重要であります。自動車販売・整備業に携わる企業として、重要課題であると認識いたします。環境にやさしい活動・エコアクションに積極的に取組、地球環境をしっかり守りつつ企業活動を通じて地域社会への貢献と環境保全及び環境保護の活動に取り組んでいきます。

■行動指針

1　二酸化炭素排出量・削減の推進
　事業活動における、電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の削減に努めます。又社用車におけるエコドライブ（アイドリングストップ・急加速・急発進の禁止）運転を推進いたします。

2　産業廃棄物・削減の推進
　事務所・工場から出る廃棄物排出量を最小限に排出する努力をします。その為に分別処理を徹底します。

3　節水の推進
　事務所・工場などで使用する洗車用水の節水に努めます。

4　エコ整備・エコカー販売の推進
　自動車使用時における燃費の向上による二酸化炭素削減やエコ整備・エコカー販売・リサイクルパーツの使用に努めます。

5　グリーン購入の推進
　事務所・工場において、グリーンマーク商品購入・エコマーク事務用品やエコオイル・エコタイヤ商品等の販売推進に努めます。

6　環境関連法規制等の遵守
　環境関連法規制遵守を誓います。

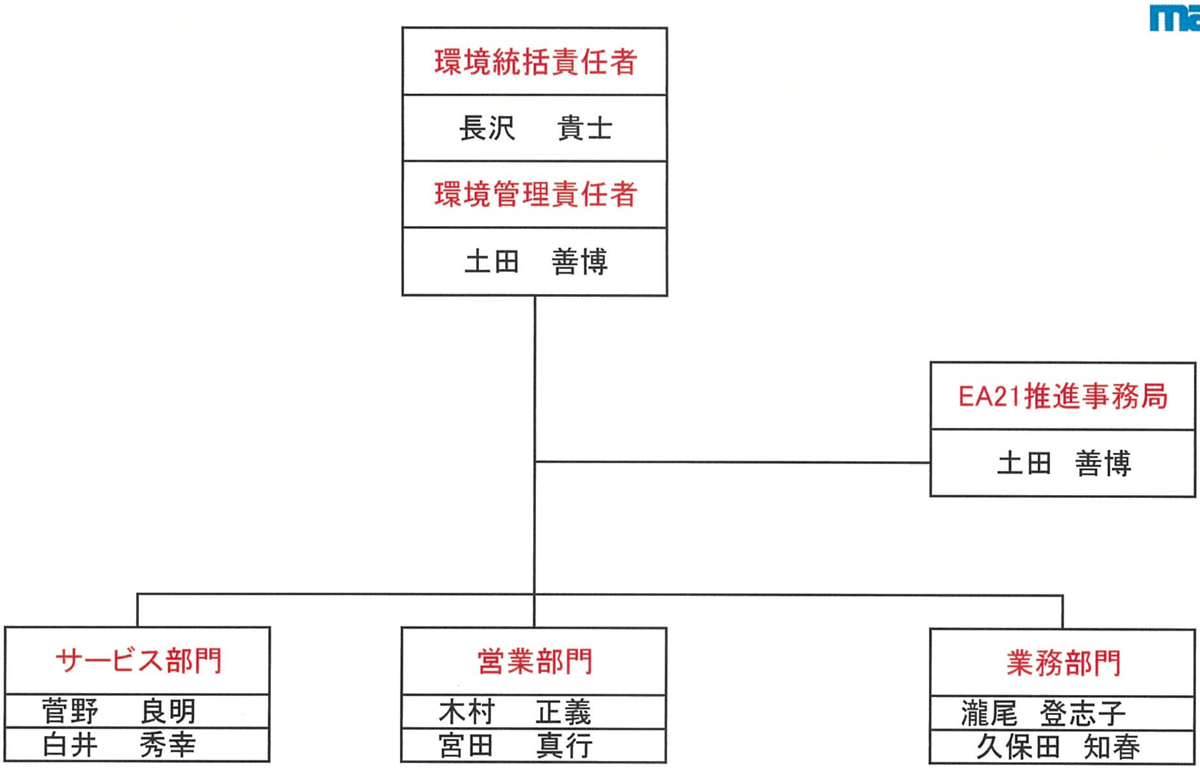
7　地域社会への貢献推進
　地域社会への貢献活動を実施いたします。又活動の実施及び全社員に周知徹底いたします。

2014年5月30日
（2015年12月17日改正）

長沢自動車総合センター

代表取締役社長　長澤　貴士

実施体制



担当者	役　割
環境統括責任者	環境マネジメントシステム（以下EMS）に関する統括責任者 ・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間を用意 ・環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	実務上の責任者として、全体の環境取り組みを推進する （※環境統括責任者は、環境経営の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲） ・EMSの構築、実施、管理
EA21推進事務局	環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局としてっ全体の環境取組を推進する ・環境取り組みの指導・支援 ・環境データの集計・取りまとめ
各部門責任者 <社長> <サービス工場長>	全社の環境取り組みを推進する ・環境経営システムの実施 ・環境経営方針の理解と環境取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り自主的、積極的に環境活動へ参加 ・店舗の環境取り組み全体の責任者として、店舗環境取り組みの推進・管理 ・MECA21を中心にサービス領域の環境取り組みに責任を持つとともに店舗全体の環境取り組みにおいて店長をサポートする
全従業員	・環境経営方針を理解し環境への重要性を自覚 ・EA21について決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

実施体制

エコアクション21　エリア担当

担当場所	担当者	役割
ショールーム	久保田　知春	電力の削減管理 不燃物分別処理 水量節水削減管理 可燃物分別管理 エコ商品関係のツール・情報提供
サービス工場	菅野　　良明 白井　　秀幸	産業廃棄物ダストBOX管理 電気の削減管理 廃タイヤ・廃バッテリ管理 エコタイヤ購入担当 リサイクル部品購入担当 ECOオイル購入担当 廃プラ・不燃物・金属類分別処理 LLC管理 油庫・廃油管理 オイル・フイルター処理管理 側溝・油水分離槽清掃
事務所	瀧尾　登志子	電力の削減管理 コピー用紙(再利用含む)の管理 グリーン商品購入担当 水量節水削減管理
倉庫	宮田　　真行	電力の削減管理 ダンボール分別処理 新聞・雑誌分別処理 ペットボトル分別処理 廃プラスチツク分別処理 スチール・アルミ缶分別処理 可燃物・不燃物分別処理
駐車場	木村　　正義	新・中古車管理 事故車・廃車管理
全エリア	長沢　　貴士	役割分担総責任者

環境経営目標

＜長沢自動車総合センターの環境経営目標と取組み方針＞
事業活動で生じる環境負荷の中で、特に影響の大きい「電気使用量」、[ガソリン・軽油使用量」、「廃棄物排出量」、「水使用量」の削減と、「グリーン購入」、「環境に配慮した製品のサービス」に取り組む。

1. 環境負荷の現状

項目		単位	2023年度
二酸化炭素排出量		kg-co2	128,287
電力使用量		kwh	116,711
化石燃料	ガソリン使用量	L	15,736
	軽油使用量	L	4,088
	灯油使用量	L	2,578
廃棄物排出量		t	11.79
水使用量(地下水)		m^3	―
エコ整備(ECOオイル交換)		円	1,095,885
グリーン購入		品目	18品

(注1)当社の事業年度は、4月～3月迄の1年間です。
(注2)当社の電気排出係数0．641で計算してあります。

2. 環境経営目標(中期)

当社は、毎年、以下の各項目について削減目標に掲げ、環境改善活動を推進します。

項目		単位	2023年度実績(基準年度)	目標 2023年度 実施期間 23年4月～24年3月 目標	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量		kg-co2	128,287	175,598	175,598	175,598
	(削減率)		―	-3.00%	-3.00%	-3.00%
電力使用量		kwh	116,711	122,526	122,526	122,526
	(削減率)		―	-3.00%	-3.00%	-3.00%
化石燃料	ガソリン使用量	L	15,736	21,289	21,289	21,289
	(削減率)		―	-3.00%	-3.00%	-3.00%
	軽油使用量	L	4,088	4,498	4,498	4,498
	(削減率)		―	-3.00%	-3.00%	-3.00%
	灯油使用量	L	2,578	2,231	2,231	2,231
	(削減率)		―	―	―	―
廃棄物排出量		t	11.79	12.61	12.61	12.61
	(削減率)		―	-3.00%	-3.00%	-3.00%
水使用量(地下水)		m^3	―	計測不能	―	―
	(削減率)		―	―	―	―
エコ整備(ECOオイル交換)		円	1,095,885	945,000	945,000	945,000
	(増加率)		―	3.00%	3.00%	3.00%
グリーン購入		品目	18	22	22	22
	増加品目		―	2	2	2

環境経営計画

当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■二酸化炭素排出量の削減

（担当責任者　：　瀧尾　登志子・久保田　知春　）

①電力使用量の削減
- 不要な照明の消灯・節電の徹底
- 冷暖房設備の温度を管理する
  （事務所）冷房28℃、暖房22℃
  （ショールーム）冷房28℃、暖房22℃
- エアコンフィルターの月一回の清掃を実施する
- パソコン待機電源のオフ設定
- クールビズ運動の実施

②化石燃料使用量の削減
- エコドライブの実施（アイドリング・ストップなど）
- 社用車の運転管理記録簿の管理・徹底
- 燃費向上の製品に交換する
- 効率的なルートで配送
- 共同配送の実施

■廃棄物排出量の削減

（担当責任者　：　白井　秀幸）

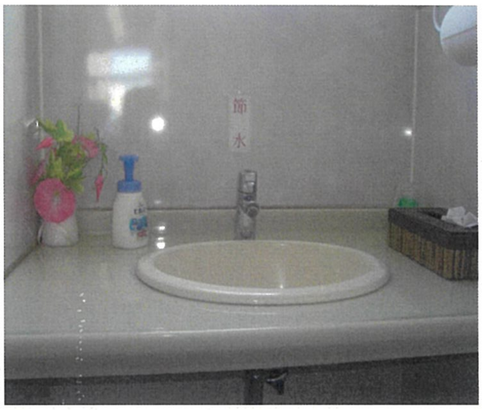
①一般廃棄物排出量削減
- 紙使用量の削減
- 用紙の裏側を再利用
- 分類別

②産業廃棄物排出量削減
- マニュフェストの管理
- 廃プラスチック・鉄くず・ガラス等の分別処理と管理

■排水量削減（水使用量の削減）

（担当責任者　：　宮田　真行）

①水使用量削減
- 洗水器具の取付
- 洗車ホースの節水意識付け
- 洗濯機の使用制限



環境経営計画

当社の主要な環境経営計画の内容は以下の通りです。

■その他の活動

（担当責任者　：　菅野　良明・久保田　知春　）

①事務用品のグリーン購入の拡大
　・事務消耗品、備品等のエコ商品を積極的に購入する
②製品への環境配慮
　・環境に配慮した車の販売
　・エコオイル・エコタイヤの販売拡大
③展示場など照明器具エコ電球へ切り替え
④毎月、会社周辺の清掃
⑤地域等主催のイベントに参加

環境経営の取組結果の評価

mazda

1.環境経営目標の達成状況

期間（2023年4月～2024年3月迄）の環境経営目標と実績は以下の通りです。

項目		単位	期間（2023年4月～2024年3月）目標	実績	削減（増加）	目標達成率	評価
二酸化炭素排出量		kg-co2	175,598	128,287	-47,311	137%	G
電力使用量		kwh	122,526	116,711	-5,815	95%	Y
化石燃料	ガソリン使用量	L	21,289	15,736	-5,553	135%	G
	軽油使用量	L	4,498	4,088	-410	110%	G
	灯油使用量	L	2,231	2,578	347	87%	Y
廃棄物排出量		t	12.61	11.79	-0.82	107%	G
水使用量（地下水使用）		m^3	―	―	―	―	―
エコ整備（ECOオイル交換		円	945,000	1,095,885	150,885	114%	G
グリーン購入		1	22	18	-4	87%	Y

（注）評価欄のG＝達成率100%以上、Y＝達成率70%以上、R＝達成率70%未満　を示します。

2. 環境経営の取組結果の評価

■二酸化炭素排出量の削減

	評価（及び評価理由）	是正処置・予防処置
Y	電力量の削減 無駄な電気使用をは極力控えている。	電気の削減を意識させて継続する。 残業等の、夜の無駄を省くことを継続。
G	化石燃料の削減 車検で一日車検を遂行しているガソリンが少なくなった。	現状維持 社員の意識が維持されている。

■廃棄物排出量の削減

	評価（及び評価理由）	是正処置・予防処置
G	廃棄物回収に資源と廃棄物の分別を強化した。 今年度より、廃棄オイル等の引取りをすすめた。 廃棄タイヤの引取りをすすめた。 現状維持していく。	今後も廃棄物分類活動を強化すると共にリサイクル部品の活用推進を行い利用率を上げる必要がある。 廃棄オイルの引取り強化の為、廃棄出量が増えた。

■排出量削減（水使用量の削減）

	評価（及び評価理由）	是正処置・予防処置
		洗車の使用制限や地下水の水量計が無い為、更なる節水意識付けができた。次年度も継続

■エコ整備（環境に配慮した整備の増加）

	評価（及び評価理由）	是正処置・予防処置
G	エコオイルの推奨にて交換等が増えた。	パックDEメンテの推奨からの、エコオイルへの転換。 提案を薦める。継続

■グリーン購入

	評価（及び評価理由）	是正処置・予防処置
Y	現場でのエコ備品も含めるようにする。 現状維持を心掛け推進する。継続	事務用品でなく、工場も含めグリーンマーク付き商品の購入拡大が必要である。

（注）評価欄のG＝達成率100%以上、Y＝達成率70%以上、R＝達成率70%未満　を示します。

3. 次年度の取り組み

今年度の取り組みを、継続します。

環境関連法規への違反・訴訟の有無

mazda

1. おもな環境関連法規と遵守状況

環境関連法令	法令要求事項	評価
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理	遵守
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	遵守
水質汚濁防止法	油水分離槽の管理	遵守
消防法	少量危険物の届出/消防設備の点検	遵守
フロン排出抑制法	機器の所有者によるフロン漏えい点検	遵守
浄化槽法	浄化槽の維持管理点検/浄化槽協会の法定検査	遵守

環境関連法規については、マツダ（株）提供の「マツダ環境保護プログラム（MECA21）」により、環境関連法規の遵守状況を確認しています（年１回実施）

2. 違反・訴訟の有無

当社は、環境関連法規の違反や訴訟は発生しておりません。
また、環境当局からの違反等の指摘は、過去3年間1件もありません。

代表者による全体の評価及び見直し

対象事業所	長沢自動車総合センター
活動期間	2023年4月～2024年3月（10年目）

見直し関連情報

	項目	確認	評価・コメント
1	エコアクション21文書	作成	継続書類として記入
2	環境目標及び目標達成状況	活動報告書	目標に向け、より意識してエコ商品への転換を進める。
3	環境活動計画及び取組実施状況	活動報告書	啓蒙活動、提示方法、周知の徹底。 （継続）
4	環境関連法令一覧表及び厳守状況	確認	産業廃棄物業者との契約書の確認と産業廃棄物の分別の徹底。 （継続）
5	外部コミュニケーション・対応記録	対応中	火災（ぼや）があり、社内改善、周知徹底。
6	問題点の是正・予防措置の実施状況	特になし	
7	取引先・業界・関係行政機関その他の外部動向	取引業者	当社がエコアクションに取り組んでいる事を取引業者に伝え取引業者に勧めている。（継続）
8	その他	特になし	

評価者	代表取締役社長　長沢　貴士	実施日	2024年10月25日

全体評価・コメント（環境経営システムへの有効性・環境への取組の適切性等）

今年度は、塗装ブースの解体作業中の火災（ぼや）があり、解体会社のミスではあったが、消防法適応に対する旧店舗の間違いが確認できた事が一番の教訓になった。新工場も稼働し始め、旧店舗も順次、消防法に基ずく対応を進める。
新工場、旧店舗も、社員から整理整頓をより意識するようになってきた。

代表者による全体評価・見直し

	見直し項目	変更の必要性	変更「有」の場合の指示事項
1	環境方針	□有 ○無	このまま継続する
2	環境目標	□有 ○無	このまま継続する
3	環境活動企画・取組項目	□有 ○無	このまま継続する
4	環境に関する組織	□有 ○無	このまま継続する
5	その他のシステム要素	□有 ○無	特になし
6	その他（外部への対応）	□有 ○無	エコアクションに取り組んで行く事を取引業者に伝え継続中。